高知人文社会科学会 第７回 公開シンポジウム

事前申込不要
参加無料

アート・ポリティクス

地域社会におけるアート実践と文化行政の「ほどよい距離」とは？

現在、アート（文化芸術）が有する「多様な価値」への注目が高まるなかで、アートを「地方創生」や「地域活性化」の資源として位置づけようとする動きが活発になっています。行政を中心に推進されるこうした動きが活発化するなかで、地域社会におけるアート実践のあり方が改めて問われています。今回のシンポジウムでは、近年注目を集めている「アーツカウンシル」を取り上げながら、地域社会におけるアート実践と文化行政・文化政策とのあいだの「ほどよい距離」について考えてみたいと思います。

このシンポジウムでは、２名の講師をお招きします。大阪大学准教授の山田雄三氏には、英文学者、カルチュラル・スタディーズ研究者の立場から、イギリスのアーツカウンシルがどのような背景で設立されるに至ったのかについて講演いただく予定です。高知県文化財団の齋藤努氏には、アーツカウンシル担当の立場から、地域におけるアート実践と文化行政をめぐる実情や課題について講演いただく予定です。これらの講演を踏まえ、地域社会でのアート実践における文化行政とのつきあい方、ほどよい距離のとり方をめぐって、みなさんと考えてみたいと思います。奮ってご参加ください。

日時：2019 年 3 月 16 日（土）　13：30－17：00（13：00 受付開始）

会場：高知県立県民文化ホール 4 階 多目的室 6（高知県高知市本町４丁目３－30）

【プログラム】

13:00-	受付開始
13:30-13:35	開会の挨拶
13:35-13:50	趣旨説明
13:50-14:50	講演①（山田雄三氏）
14:50-15:00	休憩
15:00-16:00	講演②（齋藤努氏）
16:00-16:45	ディスカッション
16:45-16:50	閉会の挨拶

【講師紹介】

■山田雄三（大阪大学大学院文学研究科・准教授）
専門は英文学、文化研究。レイモンド・ウィリアムズと英国カルチュラル・スタディーズに関する研究に従事。主著に『ニューレフトと呼ばれたモダニストたち』（松柏社、2013 年）、『感情のカルチュラル・スタディーズ』（開文社出版、2005 年）がある。

■齋藤努（公益財団法人高知県文化財団アーツカウンシル担当）
2013 年 6 月よりアーツカウンシル東京にて Researcher を務める。2015 年４月から約２ヶ月間、国際交流基金アジアセンター アジア・フェローシップ・プログラムにてインドネシアの舞台芸術について調査・研究を行なう。2017 年５月より、高知県文化財団アーツカウンシル担当。

主催：高知人文社会科学会

お問合せ：高知人文社会科学会事務局
〒780-8520　高知市曙町二丁目５番１号
TEL: 088－844－8172　/　E-mail : kshss@kochi-u.ac.jp